



子

育て

ひと組の男女がめぐりあい、やがて結婚。最愛の子どもが
生まれると、家族の新たな物語がはじまります。
子どもは家族にとってもたいせいな宝、そして未来を担うまち
の宝でもあります。そんな子育ては、いま家庭ができながら、
地域ができながら、そしてのまちができながら、一緒に
考えてみませんか。



過疎化と 少子高齢化の波

社会の構造が変化するにつれて、人々は大都市部およびその周辺へと移り住み、人口の一極集中化が進んできました。それに反比例するように、地方の小さなまちでは過疎化・少子高齢化の波が急速に押し寄せています。

かつては九千人以上もいた本町の人口は、三月末に三千人を切りました。また、昨年の出生者数はわずか九人と寂しいものがあります。

厚生労働省が公表した平成29年人口動態統計月報年計では、出生数94万6千60人と調査開始以来過去最少。合計特殊出生率（一人の女性が一生の間に生むとした子供の数）は1・43人となっています。少子化もさることながら、わが国では年々高齢化が進んでいます。

こうした少子高齢化現象は、現代の日本全体の社会構造によるもので、本町もこうした時代の波には逆らうことはできません。しかしそんな中において、この小さなまちでもできることはあります。

妹背牛町では、まちの子ども達を大切に育てるために、担当部署が連携して取り組む「妹背牛町子育て世代包括支援センター」を本

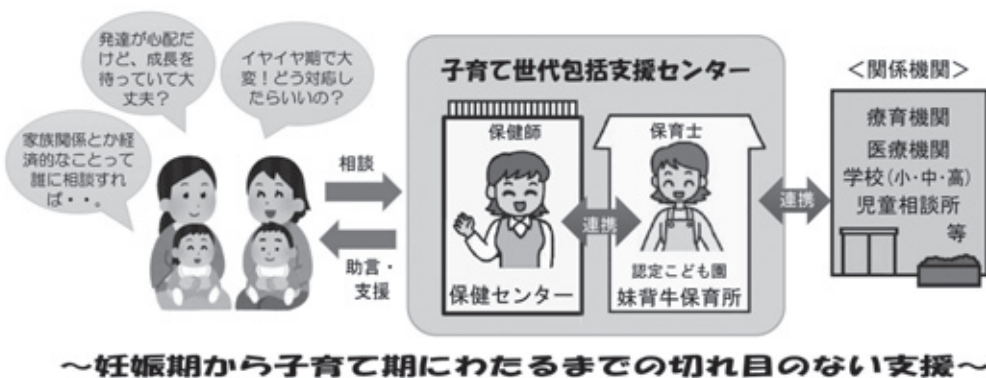
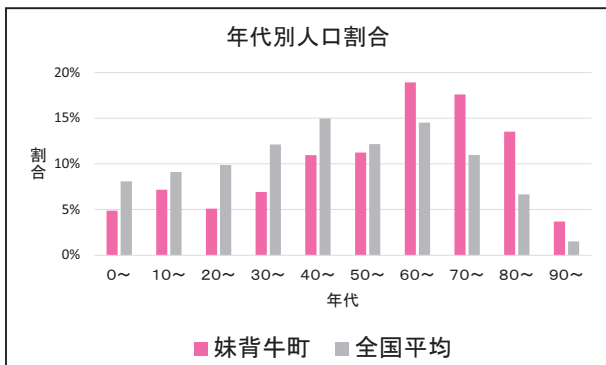
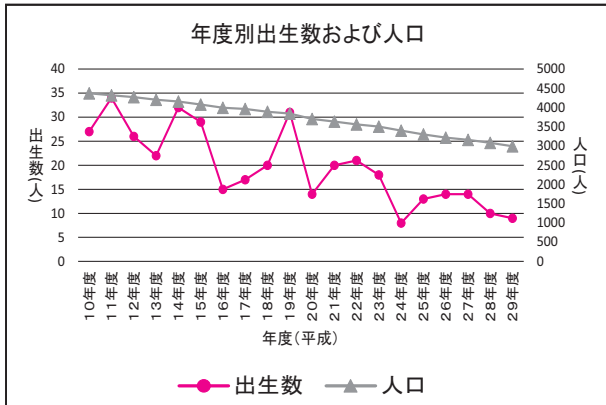
未来を担う子ども達のために いまできること

昭和35年の高齢化率は5・7%でしたが、平成29年には27・7%となっています。

データが語るまちの姿

本町の平成10年からの人口は確実に下降線を描き、本年3月ついに3千人を切りました。また出生率は、年毎に上下しているものの、人口に比例して減少しているのが分かります。

年代別人口割合では、全国平均に比べ本町は60代以上の高齢者人口が著しく上回っています。その反面、生産年齢人口（15～64歳）や、若年層の人口が下回っています。



年4月より設置しました。これは、母子保健や育児に関する問題や悩みなどにきめ細かに対応するため、妊娠期から子育て期にわたって、切れ目なく、包括的な支援を行うものです。



この特集に関する
ご質問・ご意見は

役場健康福祉課 32-2411 内線 192 又は 193

子育て世代の親子に 切れ目のない支援をします。

健康福祉課 廣田主幹

子育てサービスの
一部を紹介します

妊娠前～妊娠期

妊婦健診費助成 通院支援
妊婦訪問
マタニティのつどい

出産～乳幼児期

出産祝い 産婦健診費助成
母乳・育児相談サロン利用助成
離乳食教室
新生児訪問 養育支援訪問
子育て未来塾
乳幼児健診 予防接種費用助成
遊びの教室 親子栄養教室 就学時検診
ベビー・ジュニアシート貸出
児童手当、水道料金助成
医療費全額助成



△保健センターに設けられた授乳スペース

小中学生

学童保育 思春期保健講座
児童手当、水道料金助成（中3まで）
医療費全額助成
給食費半額助成 就学援助

高校生

通学費等支援
医療費全額助成（高3まで）

子育て世代包括支援センターは、「子どもを産み育てるのにやさしいまちづくり」をめざした、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない相談・支援の「場」であり「システム」です。

妹背牛町で保健師として勤務を始めて30数年たちますが、昔と今では親子をとりまく環境が大きく変化しています。昔は3世代4世代家族も多く、子どもの人数も多かったもので、子育てに困った時にも、家族や親戚、隣近所などの身近な子育て経験者から、アドバイスをもらうことができていました。

現在は、核家族世帯も多く、祖父母がいても働いていたり遠方に住んでいる場合もあり、サポートがなくなると大変な思いをしています。子育て世代が増えています。地域全体で子育てを支える必要性が高まってきていると言えます。

保健センターで母子保健に関わっている保健師は現在3名おりますが、それぞれの担当地区の親子を同じ保健師が継続して担当する形をとっており、子育て世代親子に寄り添いながら、妊娠期からお子さんが成長して親元を離れるまで切れ目のない支援をしていくことを心掛けています。

妹背牛町の子育てサービ

スも徐々に充実してきてはいますが、特に働きながら子育てをしているお母さんにとっては、まだまだ不十分なところがあると思います。子育て世代包括支援センターでは、町民の皆様の意見を聞きながらこのまちに合ったサービスを整えていきたいと考えています。子育てに関する悩みや「こんなサービスがあらうたらいいな」などの意見を気軽に寄せただけたらと思います。



旭川育児院 子育てお悩み相談

日頃の暮らしのなかで、子育てについての悩みはありませんか？
「子育てがづらい」「思春期の子どもにどう関われば？」「いじめられて学校へいきたくない」など、親と子の問題について様々な経験をもった専任職員が対応し、解決に向けたアドバイスをします。もちろん個人の秘密・プライバシーは堅く守ります。平日・土日祝日を問わず、電話や面談での相談にも対応します。どうぞ、お気軽にご利用ください。

旭川育児院 旭川市台場2条2丁目3番45号
Tel 0166-73-4400 受付時間 午前9時～午後5時

育児に疲れたときは本を聞いて、 ちよっつこつこの休憩を・・・

町民会館図書室には、子育てに関する本や絵本も多数取りそろえています。

ときには絵本の読み聞かせで、親子のふれあいも良いもの・・・



同じ子育てママ世代だから、 苦労や悩みも共感しあえる。

子育て世代包括支援センターのスタッフ長野保健師は、2歳と4歳の子どもを育てるママさんです。そしておなかの中には、まもなく誕生の時を迎える赤ちゃんが・・・

「同じ立場・同じ世代だから、子育ての苦労や悩みは言葉にしなくても共感しあえる。保健師の立場でアドバイスしながら、実は私も勉強させてもらっています。(笑)」



子育ては一人で抱えこまず

家族や仲間、地域の手助けをうけて

「愛する我が子の成長には何ものにも代えがたい喜びがある反面、人には言いえない苦労やトラブルもあるもの。そんな子育ての問題や解決方法について、道内の児童相談所で様々なケースを取り扱ってきた、旭川育児院の多田院長にお聞きしました。」

戦後の復興から立ち上がり、私たちの暮らしは過去とは比べものにならないほど豊かになりました。その反面、社会構造の変化と共に様々な不みも生じ、特に少子高齢化現象は顕著なものがあります。児童相談

所の統計では、児童数の減少に反比例して相談件数は年々増加しています。この理由のひとつとして、平成12年に児童虐待防止法が制定され社会の認知度が高まった事。そしてもうひとつは、子育て環境の変化です。

かつては一家に三世代が同居し兄弟姉妹の数も多く、こうした家庭という社会の中で時には揉まれ、困った時には助け合って暮らしていました。日本の出生率は近年著しく激減し、今や一組の夫婦に子どもが一人〜二人。その結果、どうしても数少ない子に対する思い入れが強くなる傾向にあります。しかし、思いの通り育たない事が度重な

ると、次第に育児の悩みが募り自分を責め、やがてそのストレスが様々な形で子に向けられるといった事件が全国各地で発生しています。

子育てにあたるご両親、特別にお母さんをお願いしたいのは「決して悩みや苦しみを一人で抱え込まないこと。」家族や周囲の人に思い切つて心に残めたものをさらけ出してみることも大切です。また、同じ子育て世代のお母さん達の仲間が、互いに困っていることを打ち明け、悩みや苦労を共にするのはとても良いことだと思います。

また、行政でも出生前から保健師によるマンツーマンの支援があると思いますし、近年は役場をはじめ、医療や児童相談所など外部の機関が連携して子育て支援をする組織も設けられています。どうかこれら周囲の手助けを有効に生かし、大切なお子さんを健康やかに育てて頂きたいと思



旭川育児院 多田傳生院長

児童相談所の職員として道内各地で勤務。育児放棄や虐待、さらには非行など児童に関する多種多様なケースに対処してきた。

平成28年に、社会福祉法人旭川育児院の院長に就任。入所している70人の児童、生徒の父親代わりとなっている。

子育て世代のママさんグループ
とちのみ

ママの呼びかけではじまった青空自主保育

木の実の名称でもある「柝の実」ですが、「その土地に根付き、やがて実を結んでほしい」との願いも込めてサークル名としました。0歳から3歳までの乳幼児を育てるママさんがクチコミで仲間を募り、昨年4月に発足。現在10組の親子が参加し、毎週月曜日に親子での外あそびを中心とした活動や、お昼には保健センターでランチを楽しみながら交流しています。

育児のために家に閉じこもっていると、いつしかストレスがたまりイライラが募るもの。こうして同じ子育て世代の仲間が集い、互いに日頃の悩みを語ったり、ちょっとした育児のアイデアを共有するなど、ここは子育てママさんたちにとって貴重なコミュニケーションの場でもあります。「親も子ども自分らしく活動できる場所を」と、みんなでいろいろプログラムを考え、特に夏場には青空の下で、さくらんぼ狩りや焼き芋会などで楽しいひとときを過ごしています。

